

「ボール紙で作る橋コンテスト」の開催

国土技術政策総合研究所 正会員 ○土肥 学、長屋 和宏
野口 一真、若井 裕

1. はじめに

国総研では、当所の研究および活動内容や存在意義を国民および技術者などに周知することで広い理解と深い共感を得るため、広報の対象別に目的と活動方針を明確にした上で、各種メディアを活用して効果的な手段により、組織全体で積極的な情報発信をしている。本稿では、本活動の一環として、国総研が約四半世紀にわたり開催してきている、「ボール紙で作る橋コンテスト」について報告する。

2. 国総研広報計画アクションプラン

広報活動にあたっては、広報を行う対象（国民、研究者・技術者、地方公共団体などのインフラ管理者、他）別に目的と方針を明確にした広報計画と具体的な行動を定めたアクションプランを策定している。

国民に対する広報計画の目的は、「研究、技術支援や災害支援の活動が、自分たちの生活や社会・経済活動に役立っており、国総研が社会を支える重要な存在であることを認識してもらう」と位置付け、その活動方針を「研究・技術情報や研究成果、国総研の活動内容を分かりやすく発信するとともに、実験設備公開や出前講座などを通じた交流の促進を図る」としている。また、アクションプランでは、記者発表、実験設備の公開、外部での研究発表などを重点として、国総研の研究・活動内容を「①知ってもらう、②見てもらう、③使ってもらう」という観点を意識することとしている。

3. ボール紙で作る橋コンテスト

アクションプランに基づき研究施設の公開を積極的に実施しており、随時の来訪者への対応の他、年間3回（科学技術週間（4/18を含む週）、つくばちびっ子博士（夏休み期間）、土木の日）の研究所の一般公開を開催して近隣の児童・生徒に国総研に対する理解を深めてもらう機会を設けている。

このような中、日本の将来を担う小学生に「ものづくりを通じて私たちの生活を支える橋などの土木インフラの大切さを知ってもらう」ことを目的に「ボール紙で作る橋コンテスト」を平成6年度から実施している。

本コンテストの実施要領は、図-1のとおりであり、例年5月頃につくば市教育委員会を通じて学校に案内している。作品は、学校を通じての応募とし、9月1日を締め切りとしている。このため、参加者の多くは夏休みに本コンテスト応募作品の製作に取り組んでいる。また、参加者は、参加案内の流れから必然的につくば市内の小学生に限られている。なお、本コンテストの実施にあたっては、つくば市教育委員会の後援を受けている。

参加資格は、平成27年度までは小学5年生のみとしていたが、平成28年度のコンテストより参加資格を4～5年生に拡大した。この趣旨は、より多くの児童に参加してもらうことはもちろん、1度のコンテスト参加で終わること無く、繰返し参加することで、作品の企画や製作の経験、他の作

「ボール紙で作る橋コンテスト」

- ◆参加資格：小学4年生または5年生（個人、グループ、どちらでも参加可。）
- ◆作品：工作用ボール紙※2枚を材料とした、「ぼくの橋、わたしの橋」
※B3サイズ 380×525mm

【守って欲しいこと】

- 橋は、幅30cmの川を渡れるようにしてください。川の中に柱などは立てられません。
- 橋は、1kgの重りを中央付近に載せても、壊れないようにしてください。
- 橋は、色付け、かざり付けをして、ぼくの橋、わたしの橋を表現してください。

図-1 コンテスト実施要領

キーワード 広報計画, ボール紙で作る橋コンテスト, つくば市, 小学生

連絡先 〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地 国土交通省国土技術政策総合研究所 TEL：029-864-4090

品を見ることでの学び、を踏まえたより良い作品を応募してもらうこと、さらには、コンテスト全体のレベルアップが図られること、を期待したものである。

直近の5年間（平成24～28年度）の参加者数と応募作品数の推移を図-2に示す。平成24～27年度の4年間の参加者数は400名程度となっている。これは、つくば市内の参加資格に該当する児童の約20%に相当する。一方、23回目の開催となった平成28年度は、参加資格の対象学年を広げたことから増加し、657名の参加（34の小学校より596作品）となった。この数値より、つくば市内の多くの小学生に関心を持っていただき、本コンテストに参加頂いている状況が伺える。

なお、市内の多くの学校では、本コンテストへの参加作品の製作を夏休みの宿題と位置付けており、一部の学校では、該当学年の全児童に参加を促している。

応募された作品は、美術・橋梁の専門家および教育関係者（計5名）が「橋としての安定感」、「デザインや仕上がりの美しさ」、「ばくらしさ、わたらしさ（独創性）」を評価し、それぞれが優れた作品に「構造デザイン賞」、「美術デザイン賞」、「努力賞」（各5作品、合計15作品）を、全ての項目が優れている作品に「最優秀賞」（3作品、写真-1）を授与している。また、各校の参加資格に該当する在校児童数に対する参加率の高い学校には、「学校奨励賞」を授与している。受賞者の表彰式は、毎年11月に国総研で実施している「土木の日一般公開」の会場で実施（写真-2）するとともに、全応募作品の展示を行っている。

さらに、「土木の日一般公開」終了後は、児童らの力作をより多くの方に見てもらうこと、本コンテストおよび国総研の活動を広くアピールすること、を目的に近隣の大型ショッピングモール（イーアスつくば）において、入賞作品の実作品と応募全作品の写真および国総研の活動を紹介するパネルを展示している。

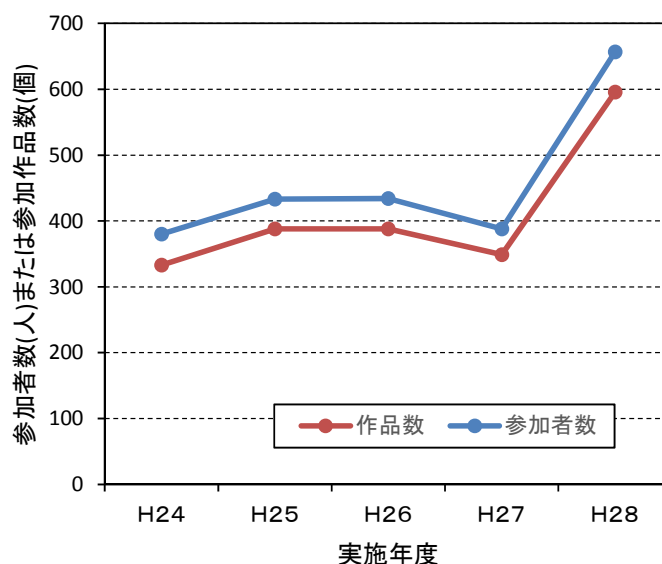


図-2 コンテスト参加者・作品数の推移

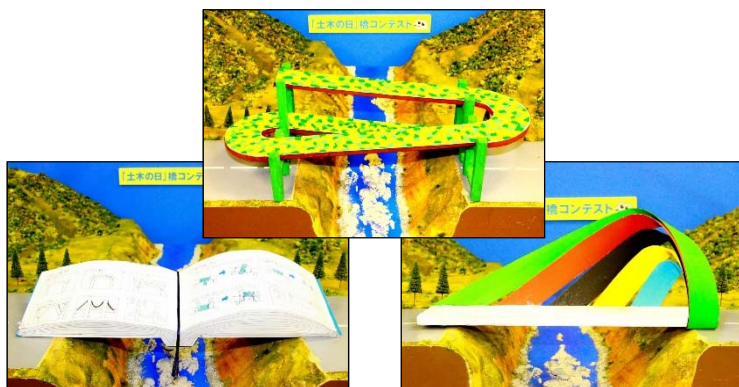


写真-1 最優秀作品



写真-2 受賞作品の表彰式

4. まとめ

国総研では、本稿で紹介した「ボール紙で作る橋コンテスト」の他、様々な媒体を用いて児童・生徒に土木・インフラに関する技術を理解してもらう機会を設けている。例えば、職員が学校などに直接出向き、小学生から一般社会人の皆さんとコミュニケーションを取りながら研究内容を説明したり質問に答えたりする「出前講座」、当所の研究を児童・生徒向けにまとめたパネルの公共施設（駅や市役所など）や各種展示会での展示、を行っている。今後もこれらの活動を行い、児童・生徒にインフラに対する興味や関心を高めてもらい、一人でも多くの児童・生徒が我々の業界を目指してくれることを期待する。